



アウンクル

創刊号

2005.12.10 発行

上尾中央総合病院
院外広報誌

創刊によせて

上尾中央総合病院 院長 中村 康彦



この度、上尾中央総合病院院外広報誌「アウンクル」を創刊するのはこびとなりました。創設者である中村秀夫理事長が北海道出身であることから、当院では各所の名称にアイヌ語を使用しております。この「アウンクル」という言葉もアイヌ語で「隣人」という意味です。上尾中央総合病院は、いつでも地域住民の皆様の隣にいますという意味をこめて命名いたしました。

アウンクルは、上尾中央総合病院の社会的使命から、積極的に地域との関わりをもち、強化していくことを目的として創刊いたします。私たちは、地域の皆様の健康増進を推進すると共に、皆様が自らの判断によって必要とする医療機関を選択するために有用な情報を発信していきます。

また、私たちは地域医療の充実という観点から当院以外の病院・診療所との連携を密にして活動を行っていきたいと考えております。病院と診療所がそれぞれの機能を生かした医療を実践することで、よりよい医療サービスを地域住民の皆様に提供できると信じております。そこで、医療連携の推進にご協力を頂いております地域の医療機関をご紹介させていただくコーナーを作ることになりました。このコーナーを利用していただくことで、皆様が適切な医療サービスを適切な医療機関でお受けになることへの一助となれぱと考えております。

この院外広報誌アウンクルは年6回の発行を予定しております。アウンクルが皆様に愛読していただけますように、内容の充実を図っていききたいと考えております。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

インフルエンザの予防と発症後の対処について

上尾中央総合病院 生活習慣病センター センター長 橋本 佳明



インフルエンザの季節になりました。皆様、お元気でしょうか？インフルエンザと普通のかぜの違いをご存じですか？普通のかぜの症状は、のどの痛み、鼻汁、くしゃみ、咳が中心で熱もそれほど高くありません。一方、インフルエンザは、高熱(38℃以上)、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状が強くなります。高齢の方や、慢性の病気(呼吸器疾患、心臓病、腎臓病、肝臓病、糖尿病など)のある方は重症化することがあり、充分注意する必要があります。最も効果的な予防法は流行前にワクチン接種を受けることです。ワクチン接種によりインフルエンザにかかりにくくなり、たとえインフルエンザにかかっても重症化を防止することができます。また他にも留意していただきたいことがあります。空気が乾燥するとインフルエンザにかかりやすくなりますので、加湿器を使って室内を適度な湿度(50~60%)に保ちましょう。外出時のマスク、帰宅時のうがい、手洗いの励行もお勧めします。体力に自信のない方は人込みや繁華街への外出を控えましょう。

もしインフルエンザにかかってしまったら、早めに医療機関を受診して治療を受けましょう。インフルエンザ治療薬を飲むと早く回復します。安静、睡眠、水分補給も重要です。また、周りの方にうつさないためにマスクを着用しましょう。

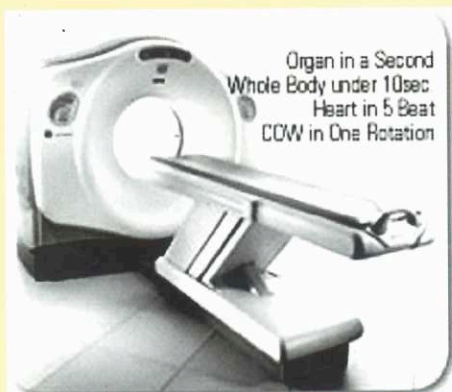
以上、インフルエンザの予防方法や発症後の対処について述べましたが、平生から禁煙、適度の飲酒、適度な運動、バランスのとれた食事を励行し、インフルエンザにかかりにくい体をつくるよう努めることが最も重要であります。

今年の冬を元気にのりきりしましょう。



インフルエンザ予防接種風景

当院の医療機器の紹介

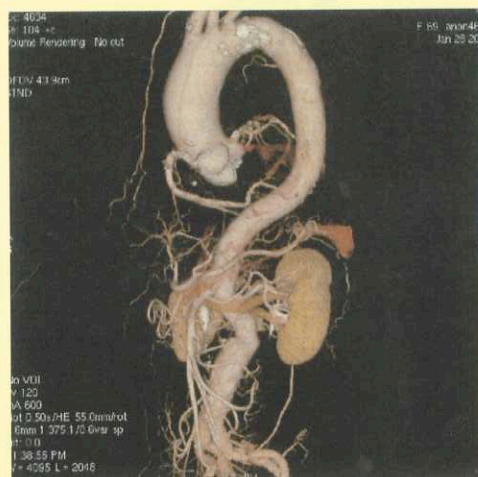


最新鋭64列 マルチスライスCT装置 GE社製 「Light Speed VCT」のご案内

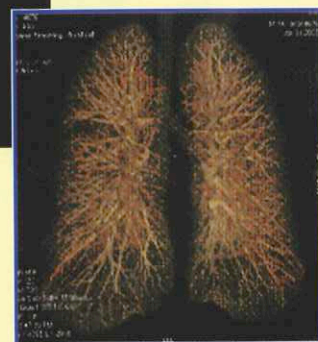
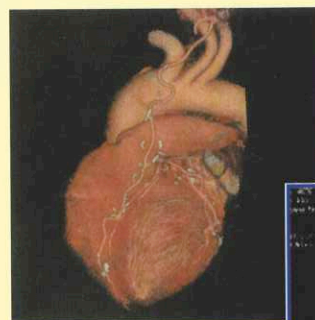
近年の医療ならびに放射線機器の急激な進歩に適應するため、当院においても最新鋭64列マルチスライスVCT を平成17年7月31日に導入いたしました。

大動脈だけではなく冠状動脈ならびに細部の血管まで同時に描出できるようになりました。
(今までのCTでは冠状動脈まで描出することはできません。)

右の画像の撮影時間はわずか6.6秒です。



VCTでは高い解像度と
広範囲の撮影の両立を
実現できます。



CT検査とは「Computed Tomography: コンピューター断層撮影」といいます。このVCTは最先端のCTで短い息止め時間で気管支、肺や肝臓の小さな病変も発見できます。造影剤を使うことで、今までのCTでは撮ることが難しかった心臓の冠状動脈の状態が診断出来るようになりました。

地域医療連携の推進にご協力いただいている先生方

地域医療連携とは、地域の医療機関が自らの施設の設備や地域の医療状況に応じて、診療内容・医療機関の分担や専門化を進め、各医療機関が相互に円滑な連携を図り、専門的機能を最大限有効に提供することを目的としています。

当院は、地域の医療機関との連携を推進しており、様々な医療機関と連携することで、より質の高い医療を効果的に地域の皆様に提供することが可能になると考えております。この医療連携にご協力いただいている「上尾アーバンクリニック」と「ナラヤマレディースクリニック」のご紹介をさせていただきます。

上尾アーバン クリニック

上尾市緑丘3-5-28 シンワビル緑丘1F
TEL.048-778-1929 / FAX.048-778-1930
院長 牛尼 秀樹



内科・消化器科・循環器科・呼吸器科・アレルギー科

日本内科学会認定内科医／日本消化器内視鏡学会専門医

ご案内



平成17年2月2日に、北上尾のPAPA近隣に開業しました。上尾アーバンクリニックの院長の牛尼と申します。当院では、電子カルテシステムを導入し、各種医療機器（ヘリカルCTスキャン、超音波装置、電子内視鏡など）を完備しており、それら画像とカルテが連動する形態をとっています。特に、生活習慣病（糖尿病、高血圧症、高脂血症）の治療には力を注いでおり、血管年齢解析装置（血管の硬さ、詰まり具合の評価する装置）などを駆使して、的確にその病態を評価して治療に役立てています。

皆様へ

検査設備が充実したクリニックです。人間ドックや健診業務にも力を注いでいます。
‘検査は病院でするもの’という固定概念をお持ちにならず、気軽にお立ち寄り下さい。

診療時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30～12:30	○	○	○	○	○	○	
14:30～18:00	○	○		○	○		

ナラヤマレディース クリニック

上尾市本町1-1-7
TEL.048-771-3659 / FAX.048-771-3922
院長 黒須 不二男



産科・婦人科・小児科・内科

日本産科婦人科学会専門医／母体保護法指定医

ご案内



上尾駅東口より徒歩8分。上尾市役所前のナラヤマレディースクリニックです。昭和39年の「栖山産婦人科医院」開設以来40年余り、事故なく医療を提供してまいりました。平成16年12月、最新の医療機器導入のうえ新棟建設、ナラヤマレディースクリニックとして生まれ変わりました。新たに無痛分娩をとり入れ、産科部門の充実をはかっております。無痛分娩希望で東京都内より通院されている方々もいらっしゃいます。また、婦人科部門では漢方療法をはじめとした患者様にやさしい診療を心がけております。

皆様へ

地域に根づいた安心のできる家庭的なクリニックをめざしています。お気軽に相談にいらしてください。

診療時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～11:30	○	○	○		○	○	
15:00～17:30	○	○	○		○		
18:30～19:30		○			○		

講座・教室名	内 容	開催日時	備 考
生活習慣病教室	病院職員による生活習慣病(糖尿病)についての教室	毎日(土・日・祝日除く) 15:00～16:00	1コース10回構成 参加費無料
すこやか教室	病院職員の講師による、病気や健康に関する講義	毎月1回土曜日 15:00～16:00(予定)	定員:45名 参加費無料
調 理 実 習	当院の栄養士による糖尿病・肥満の方を対象とした調理実習	隔月第4金曜日	定員:25名(予約制・先着順) 参加費700円

※開催予定は変更になる場合があります。開催日時の詳細は当院までお問い合わせ下さい。

Vリーグを目指す女子バレー部

我がバレー部は平成13年に創部し今年で5年目を迎えます。国内最高峰Vリーグに順ずるV1リーグに参戦中です。『地域に根ざし、皆さまに愛されるチーム』をモットーに、上尾の町からVリーグを目指して活動しています。2月25・26日には市民体育館で試合が行われます。

是非、一度応援に来てください。



バレー部監督 高野圭介

病院の理念

高度な医療で愛し愛される病院

理念の実行方法

1. 地域住民地域医療機関と密着した医療
2. 連携組織による24時間救急体制の実施
3. 何人も平等に医療を受けられる病院
4. 医療人としての自覚と技術向上のための教育
5. 最新鋭医療機械導入による高度な医療
6. 予防医学の推進に向けた健診業務



医療法人社団 愛友会

上尾中央総合病院

TEL.048-773-1111(代)

〒362-8588

埼玉県上尾市柏座1丁目10番10号

<http://www.ach.or.jp/>

編集 後記

この度、院外広報誌「アウナクル」を創刊する事になりました。

当院の持ち味を活かした、「高度な医療」を地域住民の皆様に提供できるように、精一杯の努力を重ねていく所存です。

また、当院の理念のもと、皆さまから「愛し愛される」広報誌を目指しておりますので、これからのご愛読お願い申し上げます。

編集長 平原 一也